

一郎さんたちは、「徒然草」の二つの章段を読み比べ、兼好法師の友人観について話し合っています。次の古文【A】・【B】と【話し合いの一部】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】

友とするにわるき者、七つあり。一つには、高くやんごとなき人。二つには、よくない若き人。三つには、病なく身強き人。四つには、酒を好む人。五つには、たけく勇める兵。六つには、虚言する人。七つには欲ふかき人。
無病で健康な
うそをつく
物をくれる
 よき友三つあり。一つには物くるる友。二つには医師。三つには智慧ある友。
身分が高くて尊い
くすし

(百十七段)

【B】

同じ心ならん人と、しめやかに物語して、をかしきことも、世のはかなき事
本当に気の合った しみみりと語り合つて おもしろい ちよつとした世間話
 も、うらなくいひ慰まんこそうれしかるべきに、さる人あるまじければ、
遠慮なく言い合つて心を慰めたなら いるはずがないから
 つゆ違はざらんと向ひるたらんは、ひとりあるこちやせん。
(相手の気持ちに)少しも逆らわないように 一人ぼっちのような
 互いに言はんほどの事をば、「げに」と聞くかひあるものから、いささか違ふ
言おうとする なるほど 聞く価値のあるものもあれば、 (考えが)多少
 所もあらん人こそ、「我はさやは思ふ」など争ひ憎み、「さるから、さぞ」とも
自分はそうは思わない 議論になつて そうだから そうなのだ
 うち語らばば、つれづれ慰まめと思へど、げには、少しかこつかたも、我と
語ることもできれば 心のさびしさもなぐさむだろう 本当のところは 不平にいたるまで
 等しからざらん人は、大方のよしなしごと言はむほどこそあらめ、まめやか
びつたりしない どうでもよいことを話し合っている間はいいとしても 真実の
 心の友には、はるかにへだたる所のありぬべきぞ、わびしきや。
大きな距離があるものだとすることは

(十二段)

【話し合いの一部】

一郎 兼好法師の友人観について、気付いたことを発表してください。

好美

【A】には、兼好法師の友人判定の基準ともいえる内容が書かれています。「わるき者」として、「虚言する人」や「欲ふかき人」を挙げていることはすぐに納得できるのですが、それ以外がなぜよくないのか分かりません。

二郎

そうですね。「若き人」や「病なく身強き人」、「たけく勇める武士」がよくないというのは、不思議に思います。

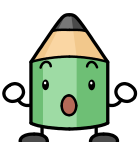
問題について

「知識及び技能 (3) 伝統的な言語文化」 古文を読み比べる問題
(兼好法師の友人観について考える)

古文を読み比べることによって、古典に表れた登場人物や作者のものの見方や考え方をより深く知ることができます。この問題のように同じ作品の別の段だけでなく、同じ時代に書かれた別の作品や、違う時代の同じジャンルの作品など、視点を決めて読むことで、古典の世界がより身近になるでしょう。

- 解答は、問題用紙に記入します。言葉や文章で答える問題は、条件に注意して書くようにしましょう。
- 解答を読んで、自分で答え合わせをすることもできます。文章で書く問題は、解答の例文を参考にしましょう。

解答



28

1 むかいいたらん

2 a 同じ心ならん人

b ひとりあるここちやせん

3 (例) 年齢差が大きいので考え方や行動が違う

* 同様の内容が書いていけばよい。

* 「付きあうのなら自分と価値観が同じで、遠慮なく付きあえる人がよい」という内容を踏まえて書いていること。

4 (例) (兼好法師は、)

自分と同じ価値観をもつ真実の心の友を求めている。しかし、そのような友は現実には存在しないので、そのような心の友を求めれば求めるほど、孤独感が深まっている。
(七十七字)

* 同様の内容が書いていけばよい。

* 理想の友人像と、実際のこととに触れて、孤独感について説明していること。